

ささやき



発行：がん診療推進委員会 発行元：がん診療支援室

がん患者さんの妊孕性温存について

がん診療支援室 布施 智絵

皆さんは「妊孕性」という言葉をご存じでしょうか。最近ではマスメディアでも取り上げられ一般的となってきましたが、妊孕性とは、男女問わず「妊娠する力」のことを言います。がん患者さんにおいては、化学療法や放射線による治療の影響で妊孕性が低下したり不妊になることも少なくありません。そこで近年国をあげて力を入れているのが、がん患者さんの妊孕性温存です。具体的には、将来子どもを持つことを希望するがん患者さんに、治療に伴う生殖機能等への影響や生殖機能の温存について治療前に確実に情報提供を行い、必要に応じて専門の機関に紹介する体制の整備です。

滋賀県では平成28年度からこの事業への積極的な取り組みを開始し、妊孕性温存処置に対する助成制度や、がん患者さんが妊孕性温存を希望された場合に早急に対応できるシステムの構築をするなどしてきました。そして今回新たに「がん治療と妊娠・出産について」というリーフレットが作成されました。このリーフレットは、助成制度の対象となる43歳未満のがん患者さんのほか、妊孕性温存に関心のある全てのがん患者さんに手にとっていただくことが目的です。当院ではがんの告知時に主治医あるいはがん診療支援室の看護師から患者さんにリーフレットを渡し、情報提供をします。また、患者さんがいつでも手に取れるよう、外来の各ブロックカウンター、外科前のラック、外来治療室、病棟の食堂、各診療科、病棟（緩和ケアマニュアルのファイルに保管）にリーフレットを設置します。イントラネットのキャビネット（がん診療推進委員会）にも掲載していますので、職員の皆様にはいつでもプリントアウトして活用していただけます。

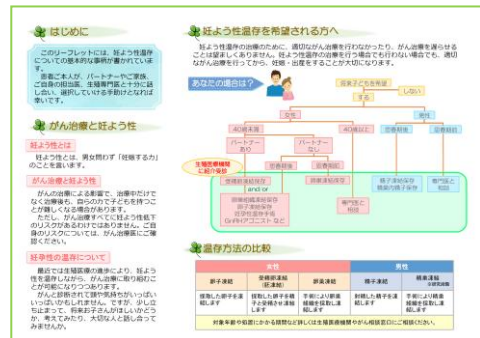
がんと診断された時、患者さんの心は不安な気持ちでいっぱいです。将来子どもを持つことを希望するがん患者さんが少しでも安心して治療に臨めるよう、私たちから情報を発信していきましょう。皆様のご協力をお願いいたします。



妊孕性に関する研修会の様子



リーフレット



『リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 滋賀医科大学』に参加して

がん診療支援室 伊藤 聡子

10月13日、14日の2日間にわたって、リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 が滋賀医科大学で開催されました。この取り組みは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティーイベントです。

当院からは、10月14日に11名がリレーウォークや相談ブースに参加しました。リレーウォークを行う周回コースは沢山のルミナリエバックで飾られており、ルミナリエバック一つ一つにはがん患者さんやその家族、支援者の熱いメッセージやイラストが描かれていて、リレーウォーク中も沢山の声援を受けて歩いているようでとても温かい気持ちになりました。ステージはパネルディスカッションやがんについての講演があったり、がんサバイバーの様々な経験談や思いが語られたりと、がん患者さんと様々な人が交流し繋がることのできる場所や時間だったのではと感じました。

今回、このイベントに初めて参加させて頂いて、がん患者さんと共に歩むということを少し実感できたように思います。身も心も充実した貴重な時間を過ごすことが出来ました。